

見えない壁に残った

東独市民の集団越境を黙認した ネーメト元ハンガリー首相



焦点 インタビュー

ベルリンの壁が崩壊して11月で20年がたちました。今、どう評価しますか？
我々が東側から壁をたたく前に、20年前に物理的な壁は消えた。だが、通貨や別の形の壁が残された。生活が豊かになり、自由になると信じた人びとの多くは、だまされたと感じるかもしれ

ない。人びとの心の中にも見えない壁が残った。だが、その責任は変革を途中でやめてしまった我々の側にある。さらに壁をたたく必要は、統合を推し進める必要はない。
ソ連と駆け引き
1989年8月、ハンガリーであった平和集会から自由を求める東ドイツ市民が西側に集団越境した「汎ヨーロッパピクニック」は、ネーメト政権が崩壊を黙認し、重要な役割を果たした。

89年3月、私はモスクワでソ連のゴルバチョフ最高会議議長(当時)と会い、オーストリア国境の開放や複数政党制の考えを伝えた。ゴルバチョフ氏は「ソ連が軍事介入したハンガリー動乱の56年は繰り返さない」と断言したが、100%の確信は持てていない。4、5週間前にピクニックの計画を知られた私は、東独市民が越境し、翌朝モスクワから電話がかかってこなければ、ゴルバチョフ氏を信じて国境開放に踏み切れると考えた。そして実際、ソ連は動かなかった。

西独首相と密談
西ドイツのコール首相(当時)との連携は？
ピクニック直前の89年8月上旬、コール氏から何度が電話をもらった。私は二つの

ドイツ国家の間に解決がもたらされるでしょう」とシグナルだけは送った。ピクニック直後、私は(ボン郊外の)ギムニヒヒ城でコール氏と秘密会談し、東独市民がハンガリー国境を越えるのを容認するとはっきり伝えた。彼は巨体を揺らして涙ながらに言った。「私とドイツ国民はあなたの決断を永久に忘れない」
国境開放はベルリンの壁崩壊を決定づけた。コール氏もゴルバチョフ氏も国境開放がすぐにベルリンの壁崩壊につながると思っていなかったと思う。89年12月、東西ドイツ首脳会議に臨むコール氏を見送った。ひざを震わせ「ドイツ人の顔をしたら「外国人」の前で話をするのは初めてだ。どうしたらいいんだ」と話すが印象的だった。(聞き手 玉川 遼)



2009



進む開発 生態に危機

1989年のベルリンの壁崩壊後、グリーンベルトを取り巻く状況は一変した。ツルンドルフ周辺も多くの農地が変わり、高速道路や鉄道が開通。90年代半ばには建設が始まった風力発電用の風車は現在200基を超え、送電線が張り巡らされている。70年に1帯に約3千平方メートルあったノガンの生息域は約6分の1に減少。数千羽いた生息数も、ヒナが畑で耕作機械に巻き込まれるなどして90年代後半には121羽まで減った。成鳥が送電線で感電死するケースも後を絶たない。オーストリア政府などは2000年から、農家から土地を買い上げてノガンの繁殖場所にするなどの対策に乗り出し、現在376羽まで持ち直しているという。

開発の波は他の地域にも押し寄せている。ドナウ川沿いに広がるセルビア東部のジェラダップ国立公園。セルビア政府は93年約6万3千ヘクタールを国内最大の国立公園として保護区に指定したが、個人所有地が多く、完全に立ち入り制限できたのは5%にとどまった。残りの95%では狩猟や樹木の伐採、建物建設が認められ、現在、住民約1万1千人が暮らす。さらに最近、公園内から古代ローマ時代や中世の遺跡群が見つかり、ドナウ川をクルーズで訪れる国内外の観光客が急増。今年2月回った船の発着回数は昨年120回、教団後には500以上に増える見通しで、河畔ではホテルやレストランの建設が進む。公園を管理するサーシャ・ネストロビッチ氏は「船や人の往来が増えれば、川の水質や生態系に悪影響を及ぼしかねない」と心配する。



緑の帯 冷戦の遺産

東西欧州分けた国境の森林



グリーンベルト周辺を飛ぶノガン=フランツ・ヨーゼフ・コワチュ氏提供

冷戦時代に欧州を分断していた長い国境線が、貴重な動植物のオアシスになっている。地雷やフェンスで長年、人の出入りが阻まれていたために、手つかずの自然が残された「グリーンベルト(緑の帯)」。ベルリンの壁崩壊から20年、開発の波が押し寄せるなか、「死のベルトから命のベルトへ」を合言葉に保護の動きが広がる。(オーストリア東部ツルンドルフ玉川 遼)

双眼鏡を手に草原のなかたに目をこらすと、野ウサギや鹿の群れが跳びはねるのが見える。突然、白と茶色のコントラストの鮮やかな鳥の一群が、空を舞い上がった。世界的に希少な野鳥ノガンだ。スロバキア、ハンガリーとの国境線が二つに交わるオーストリア東部のツルンドルフ周辺は、20年前まで鉄条網や監視塔が置かれ、警備兵以外誰も近寄ることができなかった。それが幸いし、警戒心の強いノガンが羽を休め、巣をつくるようになった。ノガンは大型のツルの仲間。主に東欧やスペイン、旧ソ連中部、中国北部などの草原をすみかとしてきたが、乱獲などで約3万8千〜4万7千羽まで減少。絶滅の恐れがあるとして国際自然保護連合(IUCN)のレッドリストにも登録されている。約10年、ノガンの保護に取り組んでいるライナー・ラープさん(39)は「グリーンベルトがノガンの揺りかごの役目を果たしてきた」と話す。グリーンベルトは北はバルティック海から南は黒海やアドリア海まで20カ国以上にまたがる総延長8500以上の緑地帯。冷戦終結までの約40年間、東西を分断してきた「鉄のカーテン」をほほえるように、幅教団から数センチ及ぶ森林や草原が断片的に続く。家族が離ればなれにされた国境は、動植物の宝庫として残された。ノガンをはじめコウノトリ、カワウソ、珍しいランの仲間など600以上の貴重種が確認されている。

久しぶりの授乳姿

地球温暖化対策を話し合う国際会議(COP15)の会場へと、電車に乗った。半分ほど席が埋まった車内で、隣に女性が「ターターをめぐり、赤ちゃんに母乳をやり始めた。じろじろ見る人もなく、反対側の座席の若い男性がさりげなく視線を外す姿がなかなか好ましい。日本でも、子どもの頃はよく見かけた見知らぬ人の授乳姿だが、最近はずっと目にはなくなってきた。聞くところ、デンマークは母乳育児率が高く、公共の場での授乳は一般的だそうだ。この点は欧州でも分かれる。「体形が閉れる」など母親に敬遠され、母乳育児は少数派というフランス。私が暮らすベルギーでは、外出先では哺乳びんを使う母親が圧倒的に主流だ。英国などでは「人前で肌をさらし風紀を乱す」「男性へのセクハラだ」という論争があった。デンマークでは、そこまでの議論はないらしい。人口約550万人の小さな国だし、女性が一生に産む子どもの数も1980年代を感に上昇傾向にある。みんな子どもを成長を見守る雰囲気があるのかもしれない。成長した後で責められるような対策は許されないなあ、と思うながら、遠くを流れる工場からの煙と、風力発電用の風車を眺めた。(井田香奈子)

特派員メモ

地球温暖化対策を話し合う国際会議(COP15)の会場へと、電車に乗った。半分ほど席が埋まった車内で、隣に女性が「ターターをめぐり、赤ちゃんに母乳をやり始めた。じろじろ見る人もなく、反対側の座席の若い男性がさりげなく視線を外す姿がなかなか好ましい。日本でも、子どもの頃はよく見かけた見知らぬ人の授乳姿だが、最近はずっと目にはなくなってきた。聞くところ、デンマークは母乳育児率が高く、公共の場での授乳は一般的だそうだ。この点は欧州でも分かれる。「体形が閉れる」など母親に敬遠され、母乳育児は少数派というフランス。私が暮らすベルギーでは、外出先では哺乳びんを使う母親が圧倒的に主流だ。英国などでは「人前で肌をさらし風紀を乱す」「男性へのセクハラだ」という論争があった。デンマークでは、そこまでの議論はないらしい。人口約550万人の小さな国だし、女性が一生に産む子どもの数も1980年代を感に上昇傾向にある。みんな子どもを成長を見守る雰囲気があるのかもしれない。成長した後で責められるような対策は許されないなあ、と思うながら、遠くを流れる工場からの煙と、風力発電用の風車を眺めた。(井田香奈子)

ニュースの単語帳

●COP=(条約の)締約国会議 Conference of the Partiesの略。さまざまな多国間条約(multilateral treaties)で、最高意思決定

機関として設置している。現在、コペンハーゲンで行われているのは、国連気候変動枠組み条約の第15回締約国会議(COP15)。